

令和8年度 土木学会中国支部 支部長
山口大学大学院 創成科学研究科 教授

中田 幸男



令和8年度の土木学会中国支部長を拝命しました山口大学大学院の中田幸男です。どうぞよろしくお願いいたします。はじめに、令和7年度の支部運営の任にあたられました、西日本高速道路株式会社中国支社の本園支部長、田村幹事長、森事務幹

事におかれましては、事業の運営に多大なご尽力を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

ここで支部長就任に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

私たちが守る中国地方の建設業界において、激甚化する自然災害に対する防災、減災、レジリエンス強化、インフラ老朽化へのメンテナンス、デジタル技術を活用したインフラ建設、土木の魅力の再発進と社会からの共感醸造といった課題に直面しています。今年は、西日本豪雨から8年にあたります。記憶の風化が懸念される中で、組織の垣根を越えた「技術者ネットワーク」が真の地域の守り手として機能し、地域防災力が向上することが切望されています。また、人工知能（AI）の積極的な利活用は注目すべきところです。AIは、熟練者の知恵を確かな技術として次世代に繋ぐ知の継承を可能にし、同時に、土木の価値を一般社会へ分かりやすく伝える広報をも実現します。

土木学会では「土木工学の進歩及び土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与する」ことを目指し、多岐にわたる取り組みを進めています。

本年度は、支部研究発表会や研究奨励、また土木の日関連行事（親子現場見学会、土木実験教室、どぼくカフェ・土木ツアーなど）や各種表彰などの取り組みを計画しています。これらの活動を通じて、次世代の土木技術者を育成するとともに、一般の方々に土木技術の社会的な役割や重要性を理解していただき、土木分野への関心を喚起することを目指していきたくと考えております。最後になりましたが、みなさんとともにより一層活気ある中国支部となるよう、微力ながら頑張らせていただきますので、会員皆様のご支援をいただければ幸いです。それでは、この一年よろしくお願いいたします。

土木学会中国支部特別講演会の開催報告
山口大学大学院 創成科学研究科 准教授

幹事長 森 啓年

令和8年5月20日（水）、メルパルク広島にて、土木学会中国支部特別講演会として、次期土木学会会長・小澤一雅氏による『土木学会と私』と題した講演が行われました。

講演では、1. 土木学会の目的と理念、2. 土木学会の役割と活動内容の変遷、3. 時代のニーズに応える活動への挑戦、4. JSCE2025 とこれからの土木学会について、ご講演いただきました。

初代会長・古市公威先生のお言葉にある「研究の範囲を縦横に拡張することの重要性」や、「将に将たる」技術者としての在り方について、小澤次期会長の貴重なご経験談を交えながらご紹介いただきました。また、土木学会がこれまで、土木工学の進歩・土木事業の発達を通じて、学術文化の進展や土木技術者の資質向上と社会の発展に貢献してきたこと、さらに時代のニーズに応じて、調査研究、講演会・講習会、資格制度など活動領域を広げながら、社会基盤整備を支えてきたことについてもご説明いただきました。加えて、これからの土木学会に求められる取組として、世代を超えた対話によるベテランの知恵と若手の情熱の融合、学会内外との連携による価値創出とイノベーション・エコシステムの構築、次世代リーダーが挑戦できる場の整備、そして公正かつ開かれた透明性の高い組織運営の重要性について、多くの示唆に富むご提案をいただきました。さらに、普遍的な理念を羅針盤としながら、持続可能な土木学会へ進化していく必要性についてもお話いただきました。

夜の交流会にもご参加いただき、中国支部の活動へのご助言も賜りました。誠にありがとうございました。



写真 土木学会中国支部特別講演会会場（左）

小澤土木学会次期会長（右）

令和 7 年度 土木学会中国支部賞

土木学会中国支部賞は、土木技術による中国地方の発展に寄与する著しい業績、中国地方に建設された優れた土木施設あるいは構造物の工事、中国地方の地域課題の解決に向け取り組んだ業務、あるいは技術の普及に貢献した業務などで、土木学会中国支部会員が関与するものに贈る賞です。今回で 5 回目の令和 7 年度の支部賞は、令和 7 年 10 月 1 日から令和 7 年 11 月 30 日まで募集を行 5 件の応募があり、令和 8 年 1 月に選考委員会を開催し 3 件の支部賞を決定いたしました。令和 7 年度支部賞を受賞した業績を紹介いたします。

＜中国地方の地域課題の解決に向け取り組んだ業務、あるいは技術の普及に貢献した業務＞

受賞業績名：境港を基地とした「命のみなとネットワーク」

受賞者：国土交通省 中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所

写真：



← 港湾業務艇「はくしゅう」

↓ 宇龍漁港における支援物資の積み出し状況



選定理由：

国土交通省港湾局では、災害発生時に“みなと”の機能を最大限に活用し、各地域で物流・人流のための「命のみなとネットワーク（以下、命のみなと NW）」の形成に取り組んでいる。

中国地方整備局においても、国、各県や市町村とともに、地域毎の現地特性を踏まえた訓練を毎年協働で計画・実施しているところであり、島根県出雲市の宇龍漁港においても 2024 年 9 月に予定されている出雲市防災訓練と連動した「命のみなと NW 訓練」に向けて、同年 6 月 29 日に出雲市をはじめとした地元関係者と連携し、停泊可能箇所の調整等を進めていたところ、2024 年 7 月 10 日、島根県東部豪雨の影響により、出雲市側から島根半島へ接続する唯一の道路である県道日御碕線が崩落し、宇龍地区の住民や観光客が孤立状態となったことから、出雲市から宇龍漁港へ港湾業務艇「はくしゅう」の派遣の要請があったところであるが、要請に応じるため同日 10 時に境港を出港し、観光客の輸送支援、緊急物資輸送支援等を実施した。

事前の机上検討や訓練が行われていなければ、港湾業務艇の係留場所、緊急物資の荷下ろし先等を確認せねばならず、要請後直ちに迅速な対応を執ることは不可能であったといえる。国土交通省と関係市町村等が合同で、現地特性を踏まえた物資又は人員輸送に係る実動訓練を行ったことにより、災害発生時においても“みなと”の機能を最大限活用した海上輸送による救助・救援や物資輸送等の災害対応支援が実施可能となった。



表 彰 式



賞状とトロフィー

＜中国地方の地域課題の解決に向け取り組んだ業務，あるいは技術の普及に貢献した業務＞

受賞業績名：主要地方道 鞆松永線道路改良事業（鞆未来トンネル）

受賞者：広島県 土木建築局

写真：



↑ 鞆松永線道路改良事業 鞆未来トンネル



ウォーキングイベント→

選定理由：

「鞆の浦」は、古代より潮待ちの港として栄え、瀬戸内海の交通の要衝として重要な役割を果たしてきた港町であり、江戸期の港湾施設に必要とされた「常夜燈」、「雁木」、「波止」、「船番所」、「焚場」という 5 つの施設が国内で唯一残っている港である。他にも数多くの寺院や伝統的な町並みが現存しており、多くの観光客が訪れる観光地である。一方で、鞆地区の中心部は古くからの家屋が多く残り、道幅が狭く、車の離合が困難なことから、通勤時間帯や観光シーズンに交通混雑が生じ、地域住民の生活や安全に影響が生じていた。

鞆地区道路港湾整備事業については、昭和 58 年 12 月の埋立架橋計画策定後、平成 19 年 5 月に埋立願書を出願した。その後、差し止め訴訟が提訴されるなど、問題解決が進まない状況にあった。

埋立架橋計画に賛成する立場と反対する立場がぶつかり合い、地域が分断され、将来に禍根が残るといったことは避けなければならなかった。このため、それぞれの立場の違いを越えて、鞆地区が抱える課題に立ち返り、住民が日常生活で直面している様々な問題、ニーズ、解決策などを直接話し合い、解決を図る場として「鞆地区地域振興住民協議会」を設置した。また、住民協議会では、対話が促進されるよう、鞆地区の問題に利害関係を有しない第三者で中立的な立場のメディエーター（仲介者）を設け、平成 22～24 年の約 2 年にわたり 19 回の協議を行った。

平成 24 年 6 月に「生活利便性や安全確保」と「景観保全」とを両立させながら住民ニーズを最もバランスよく満たすことができるものとして、「埋立架橋計画」から「山側トンネルを含むバイパスや交通・交流拠点の整備などの総合対策」へ方針転換し、交通課題の解消に資する「鞆未来トンネル」が令和 7 年 3 月に開通した。



表彰式



賞状とトロフィー

<土木技術による中国地方の発展に寄与する著しい業績>

受賞業績名：山陰道（出雲 IC～石見福光 IC 間）

受賞者：国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所

写真：



←山陰道(出雲 IC～石見福光 IC)

開通記念イベント↓



選定理由：

山陰道は鳥取・島根・山口各県の主要都市を東西に結ぶ全長約 380 km の高規格幹線道路である。このうち、令和 7 年 3 月に出雲・湖陵道路 4.4km、湖陵・多伎道路 4.5km が開通し、松江国道事務所管内の山陰道（出雲 IC～石見福光 IC）約 49 km が連続して繋がった。

開通以前、島根県の東西移動は線形不良区間を含む国道 9 号に依存しており、事故・災害時の交通障害や移動制約が、救急医療・産業活動・観光・日常生活など移動を伴う活動全般に課題をもたらしていた。今回の開通により松江市～浜田市間の所要時間が約 20 分短縮され、沿線への企業進出・雇用創出、新工業団地整備、観光周遊の促進など地域経済の活性化に大きく貢献している。また、高次医療機関への救急搬送時間の短縮や、国道 9 号の代替機能の発揮など、地域の安心安全を担う役割も果たしている。

このような道路ストック効果を発揮させるためには、山陰道の利用促進が重要であるとの認識のもと、開通前に地域住民等を対象としたイベントを実施し、約 2,500 人が来場した。さらに、松江国道事務所の HP、新聞広報、SNS など多様な媒体を活用した広報により、幅広い世代への効果的な情報発信を実現した。

また、工事を行うにあたり i-Construction を積極的に活用することで担い手不足の課題を補いながら計画通りに工事を完成し、地域建設産業の技術力強化にも貢献した。

山陰道（出雲 IC～石見福光 IC）の整備は、様々な分野における整備効果の発現、最新技術の活用による産業育成・競争力強化等、今後の島根県及び中国地方の発展に大きく寄与するものである。



表 彰 式



賞状とトロフィー